

(様式2)

放射線等に関する教育実践事例

学校番号・学校名	〈小・53〉 いわき市立長倉小学校
〈実施日〉	平成28年 7月 13日 (水)
〈実施教科等〉	※当てはまる番号に○を付けてください。4は()に教科等を入れてください。 1 理科 ② 学級活動 3 総合的な学習の時間 4 その他()
〈実践内容〉	<p>1 児童の実態</p> <p>本学級の児童は、東日本大震災の当時の年齢は3歳である。大震災そのものの記憶も曖昧で、その後起こった福島第一原子力発電所の事故については、三分の二の児童が知らないと答えている。そのため「放射線」という言葉は聞いたことはあるが、放射線について持っている知識は、「ばい菌」「病気の原因になる」「汚い空気」ということである。また、「放射線＝体に悪いもの」といったマイナスのイメージをもっている児童がほとんどで、放射線を体に受けると死んでしまうと考えている児童も少なくない。そこで、まず児童に放射線についての正しい知識をもたせることを 第一に考え、本実践を進めていくことにした。</p> <p>2 授業の実際</p> <p>題材名 「放射線を正しく知ろう」</p> <p>(1) 身のまわりの放射線</p> <p>児童は東日本大震災における原子力発電所の事故をきっかけに、放射線が空気中に存在するようになったと考えている。そのため、健康を損なうほどではないが、空気中や地中のように自然の中にもごくわずかな量の放射線はあるということを伝えた。</p> <p>(2) 放射性物質を体に取り込まないためには？</p> <p>放射性物質はウイルスのように人から人に移るものではないことを理解させ、体の中に取り込まない方法として次の6点を説明した。</p> <ol style="list-style-type: none">① 外で遊んだら、手洗いやうがいをして顔について土や砂を洗い落とす。② 服についたほこりや、靴についた土などを落としてから室内に入る。③ お風呂に入ったり、シャワーを浴びたりして、体を清潔に保つ。④ 風の強いときは窓を閉める。⑤ 川や水たまりの水・土や砂を口に入れないようにする。⑥ 放射線量の高いところ(ホットスポット)には近づかない。 <p>このことにより、放射性物質を取り込まないために行うことは、毎日の生活の中で病気にならないために気をつけていることと変わりがないことに気づかせるようにした。</p>
〈成果〉	<ul style="list-style-type: none">○ 児童の実態を把握したうえで授業を行うようにしたことで、視点をしぼることができ、放射線に関する児童の理解を深めることができた。○ 自然の中にある放射線の存在や放射線のもつ有用性などについて理解させるようにしたことで、児童の放射線に対する不安を多少なりとも取り除くことができた。逆に、これまであまり気にすることのなかった児童にも、放射線に気をつけて生活しようという意識を持たせることができた。
〈課題〉	<ul style="list-style-type: none">● 今後は、実際に放射線量を測定したり、ゲストティーチャーを活用したりしながら、より専門的な視点から放射線について理解できるような工夫をしていきたい。● 放射線に関する基礎知識の指導が授業の中心だった。放射線から身を守るにはどうしたらよいか、授業で学んだことを日常生活の中で実践できるようにするための指導も含め、学年に応じた指導内容を検討していくことが必要である。● 指導する側の教師自身が、放射線に対してより深く正確な知識を身につけていくことが必要である。
資料作成担当者職(教諭) 氏名(大岡 由美子)	学校電話番号(42-2910)

【資料作成上の注意】

1. 平成27年8月～平成28年7月の実践についてまとめてください。
2. 提出期限の平成28年8月1日(月)までに電子メールで送信してください。
(送信先:kakuta-k@city.iwaki.fukushima.jp)